

1 学校教育目標

あい あしのこ 「学びあい・みとめあい・みがきあい」



5 総括表

2 学校経営ビジョン

(1) めざす学校の姿

明るく、楽しい学校

いきいきと活動する学校

安全で、安心な学校

(2) 教育目標達成のための基本方針

「確かな学力」の保証	「心の教育」の充実	「生きる力」の育成	「開かれた学校」づくり
「読み・書き・計算」等の基礎力の育成 基本的学習習慣の定着 学びあい等指導方法の工夫 小中連携による学力向上 (小中一貫に向けた研究) 家庭学習の充実	道徳教育・人権教育の充実 教育相談、特別支援教育体制の充実 人としての「あいうえお」の育成 「あいさつ」「ことばづかい」の指導	基本的な生活習慣や規範意識の育成 命・健康・安全教育の推進 体験的活動や勤労奉仕的な活動の実践	情報発信と収集 家庭(P.T.A)・学校評議員・地域諸機関との連携 (学校地域夢つなぎたいの活用) 学校評価の改善と公表

めざす教師の姿(教育あい)

笑顔と活気のある教師
一人一人の子どもたちを大切に
にする教師
指導力の向上に努め、創造性
豊かな教師
信頼される教師

めざす子どもの姿(自分あい)

- あかるく、礼儀正しい子ども
- しっかり学びあい、考える子ども
- のびのびと、たくましい子ども
- まったときは、助け合う子ども

めざす家庭の姿(子どもあい)

基本的な生活習慣(芦刈家庭教育指針)の育成に取り組む家庭
子どもの「安らぎの場」としての家庭づくり
積極的な来校と連携・協力を
する保護者
(学校ボランティア活動等)

3 本年度の重点目標

- 1 「確かな学力」
- 基礎基本の定着と学力の向上
- 2 「心の教育」
- 教育相談の体制作りと充実
- 3 「生きる力の育成」
- 基本的な生活習慣、学習習慣の定着
- 4 「開かれた学校」
- 家庭・地域・保護者との連携

4 前年度の成果と課題

- 1 「確かな学力」- 基礎基本の定着と学力の向上
全国や県の学習状況調査等の結果では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できたと考えられる。また結果を分析すると読解力や知識を活用する力にやや課題がある。来年度ものびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。
- 2 「心の教育」- 教育相談の体制作りと充実
学習や生徒指導面での支援、家庭に問題のある児童への支援、その他支援が必要な児童への支援など、校内での支援体制の確立を図る。教育相談等の定例研修会をはじめ職員が情報を共有して取り組む。また、保護者が来校して相談をし易い雰囲気づくりや保護者の声を聞く機会を増やして耳を傾ける体制づくりをする。
- 3 「生きる力の育成」- 基本的な生活習慣、学習習慣の定着
基本的な生活習慣や学習習慣の定着なくして学力向上はない。芦刈地区で取り組む「家庭教育指針」の振り返り表の取り組みにより家庭との連携をさらに進める。また、向上目標ではなく具体的な達成目標を掲げて学習指導・生活指導をさらに充実させる。
- 4 「開かれた学校」- 家庭・地域・保護者との連携
「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等の発信により保護者に情報を伝える。引き続き多数の参観者を得られるように取り組む。学校支援ボランティアの活動の充実により、地域への学校公開と本校教育の充実を図る。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
「確かな学力」基礎基本の定着と学力の向上				
教育活動	学力向上	基礎・基本の定着と確かな学力の向上	「読み、書き、計算」力の育成 CRT(算数)3観点(関心・意欲・態度除く)で全国比2ポイント以上をめざす。 教師の授業力を向上させる。 現在の豊かな個人読書量を維持する。	・特設タイム(読みときタイム、のびのびタイム等)を設定し、読書の習慣化、話す力、読解力、計算力の向上を目指す。 ・少人数やTT等指導形態の利点や特性を生かして、児童一人一人に応じたきめ細かな指導を單元ごとに実施する。 ・「学びのプロセス」をもとに、児童が主体的に取り組み・考える授業を日々実践する。 ・講師招聘による(年4回)理論研究会を行う。 ・各学年グループを中心に全員が、授業を見せ合う等の実践研究を行う。 ・図書館の開館時間を7時50分とし、朝の利用促進を図る。平成22年度の貸出冊数一人平均100冊を維持する。
「心の教育」教育相談の体制作りと充実				
教育活動	心の教育	教育相談・特別支援教育体制の確立	SCの活用・保護者の相談回数を増やす。 配慮を要する子についての校内研修を充実させる。	・教育相談だよりを定期的に発行し、保護者や児童への相談日を知らせSCの一層の活用を図る。 ・配慮を要する子についての教育相談研修会を年6回以上行う。また、指導の記録を記入する時間を設定する。 ・なかよしアンケートを5月と2月に実施し、子どもの実態を把握し、学級経営に活かす。 ・個別の支援計画に基づき、子どもサポーターの効果的な活用と具体的な支援体制・方法を探る。
	道徳教育	道徳指導の充実を図る	道徳の授業実践を充実させる。年間1回以上の授業公開。	・フリー参観デー(6月、11月)のふれあい道徳を活用し、保護者・地域の人に授業を公開して授業改善に努める。
「生きる力の育成」基本的な生活習慣、学習習慣の定着				
教育活動	健康教育	運動習慣の改善や定着化 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	週3日以上、休み時間に元気に遊ぶ児童が80%以上をめざす。 食に関する指導を各学年年間5時間以上行う。	・運動やあそびに使える用具(一輪車等)を児童が使いやすいように整備・設置する。 ・昼休みに体育館を利用できる日を週に一回設定し、運動したり遊んだりできる機会を確保する。 ・各学年の実態に応じて、学校栄養職員とのTTによる指導を年間1~2回行う。 ・親子おにぎり弁当作りや会食を設定し、保護者と児童が共に食育について考える機会をもつ。(5月)
	生徒指導	望ましい生活行動様式の確立	共通理解に基づく生活指導を行う。 挨拶の励行を計画的、重点的に行う。	・家庭教育指針のふり返しをする。 (4月、6月、9月、10月、11月、1月、3月) ・挨拶の具体的な向上目標を学期ごとに決めて行う。 1学期元気よく2学期進んで3学期心をこめて ・挨拶運動を運営委員会を中心に行う。(5月、9月)
「開かれた学校」家庭・地域・保護者との連携				
学校運営	開かれた学校作り	家庭・地域との連携強化	学校ボランティア人数(150人)と関わる授業等(15)を()内まで増やす。	・学校支援ボランティアの周知を進めることで登録者数の増加を図る。 ・学校支援ボランティアの人数増により支援可能な授業種類の増加と学校の受入態勢を広げる。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
学校運営	学校経営方針	重点目標の周知	学校目標を覚えやすいと回答する割合を80%以上とする	・教育目標を「あいあしのご」とし、覚えやすくする。 ・児童や保護者が見やすい場所に掲示する。 ・職員会議(職員)、全校集会(児童)等で十分時間をとって説明する。
特定課題	小学校低学年の学習環境の改善充実	小学校低学年の指導に関する計画書の内容を達成する	低学年の基本的な学習習慣と基本的な生活習慣の定着をめざす。	・話型、聴型を活用し、低学年から話を聞く態度を徹底して身につけさせる。 ・生活ふりかえり表を作成する。低学年で共通した目標を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。
	幼保小中の連携	幼保小中の連携の強化	幼保小中の連携及び小中一貫を見据えた共通理解を図る。	・幼保と低学年児童の交流を3回以上持つ。 ・小学校教員による保育者体験と中学校との授業交流を計画的に実施する。